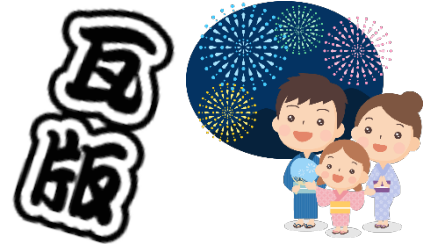


播磨 まちかどニュース

With いなみ野学園



兵庫県いなみ野学園では、大学院生などの受講生が自主制作として、地元ケーブルテレビ局「BAN-BAN テレビ」と協働し、テレビ番組「播磨まちかどニュース With いなみ野学園」を制作しています。学園内外の魅力的な活動を映像で紹介する15分の番組です。瓦版では、これまでの配信動画の内容を紹介しています。

★★最新の配信動画★★

現在、いなみ野学園ホームページに掲載している動画をご紹介します。

播磨まちかどニュース with いなみ野学園 102 「同窓研「定期総会」とミニ発表」

◆配信日 令和7年7月1日



爽やかな5月。山々は様々なグラデーションの青葉で覆われ、草木も生きようとするエネルギーに溢れています。また、町中でも明るい色の草花が目を引き、春ならこそその息吹と力強さを感じます。それらを見るだけでも元気が出る思いがしますね。

今回は、いなみ野学園同窓研修会の「定期総会」の様子をお伝えしましょう。

同窓研修会の「令和7年度定期総会」が、令和7年5月10日(土)にいなみ野学園の大講堂で開催されました。「定期総会」の前には、坂本哲也前いなみ野学園学園長の「いなみ野学園について」の講演がありました。



坂本 哲也 前いなみ野学園長

前学園長は、「3万人を超える卒業生のいなみ野学園。大学・大学院・同窓研といつまでも学び続けることがで

きる場であり、何事にも興味関心を持って、豊かにネタを仕込んでいける場、それがいなみ

野学園。心豊かに、気持ちも若く、どうぞ今後も学び続けて欲しいです」と話してくれました。

講演会のあと、10時20分から同総研集会「定期総会」の開催。大前小夜子さんの司会で始まりました。開式のことは、学園歌の斉唱、物故者への黙とう、そして開会にあたっての



金山 實同窓研修会会長のあいさつがあり、それに続いて、今年度から新たに就任された橋本正人(まさひと)生きがい創造協会理事長兼いなみ野学園長が挨拶されました。



橋本学園長は「2年前に同窓研の創立 50 周年が行われ、コロナ禍を越えて更に次を目指すみなさん。学ぶことに熱心で、その意欲や熱意に頭が下がる思いです。ここでの学びを自分だけでなく、地域にも広く広げていってほしいです」と話されました。

続いて議長には大学52期卒業の福岡敏文さんが選出され、その後は福岡議長の進行で議事の審議へと移りました。令和6年度の事業報告、決算報告、会計監査報告の審議の後、令和7年度顕彰規程に基づく「感謝状の贈呈」がありました。21名を代表して園芸クラブ



の浅田正司さんが、壇上で金山会長から感謝状を授与されました。みなさんとても晴れやかな表情で賞状を手にして

いました。

その後は、令和7年度の役員、顧問・参与の承認、委嘱があり、令和7年度の事業計画、収支予算について提案、審議され、大勢のみなさんの拍手によってすべてが承認されました。この原案に沿って、令和7年度の同窓研活動が始動しました。高齢化による会員減少の課

題を抱えながらも、50年を超える同窓研を、次に繋いでいくためにも地道に活動が続けらることと併せて、新たなことへの取り組みも期待したいものですね。私からの一句、「歩みを絶やさず、次の一步を踏み出す決意で」と心から願います。

続いて、6月7日(土)に行われました「ミニ発表会」を紹介しましょう。2つのグループの



発表です。初めは「英会話サークル」。英語で互いにやり取りをして……。その後、珍ちくりん劇団のトーンチャイム演奏。「アメイジンググレイス」を聴かせてくれました。



最後に、「花だより」では、スタッフが撮影した志方長横大路の休耕田に咲くルピナスと、高御位山のササユリの可憐な花。どちらも春を飾るにふさわしいキレイな花の紹介でした。



(ナレーション 大前小夜子)

「兵庫県立考古博物館を訪れて」

◆配信日 令和7年7月16日◆



6月17日（火）、加古郡播磨町大中1-1-1にある「兵庫県立考古博物館」を訪ねて取材をしました。



今回は、この施設の様子をお伝えします。
主に縄文・弥生時代から古墳時代につ



て出土した土器や石器、埴輪などが数多く展示されていて、子ども達にも興味関心の沸く体験コーナーを設けたりして、楽しみながら学べる施設となっています。「触れる・体感する 考古学のワンダーランド」

とあるように、考古学の不思議発見、おとぎの国と言えるのではないのでしょうか。



この施設の学習支援課：永恵裕和さんから、館内の様子を順次紹介してい

いただきました。

考古博物館の外観は、展望塔が掘立柱に似せて作られ、地下に入っていく感じに造られているとのことでした。入り口すぐのところには、縄文時代から江戸時代までの鍋・調理道具・入れ物などが展示され、次の部屋では発掘調査の現場の様子ができるようにガラス張りの床面下、そこには竪穴住居跡がそのままの形で再現されました。続いて次のコーナーでは、弥生の暮らしがわかるように、鏡や土器のレプリカがあり、それをくっつけたりして遊びながら学べる工夫もされていました。

続いては常設の「テーマ展示室」へ。

「人、環境、社会、交流」の4つをテーマ



にして、見てわかるように展示がされていました。「人」では、昔の兵庫人の墓と人骨が。古墳時代のお墓や、人骨から縄文人と弥生人の顔を再現して、「あなた

はどちら似？」と。次の「環境」では、巨大なナウマンゾウを当時の人はどのよう

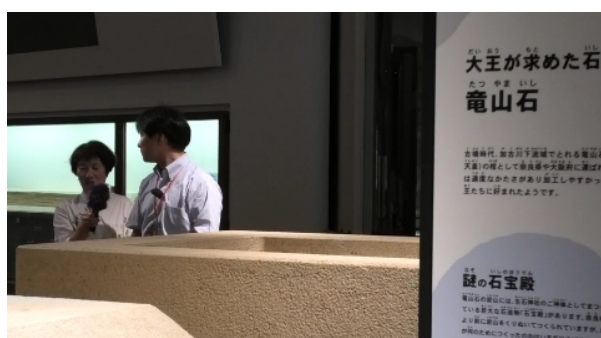
にして仕留め倒したのか？ 石の道具を工夫して集団で狩りをした、それがわかるように再現をして。「社会」では、煮炊きがで



きる道具が作られるようになり、定住社会になっていったこと。また、「交流」では、道が奈良につ

ながって国家の成立がなされたこと。山陽道もその一つ。現在もその調査を続けているとのこと

では、道が奈良につ



でした。最後は、竜山石の大きな石棺や古代の大きな舟も復元展示され、正に「触れて体感できる」施設であると実感できました。

永恵さんの案内による詳しい説明を聴きながら、改めて、ここ考古博物館の様子がよくわかりました。以前訪れた時とはまた展示の様子も変わっていて、より楽しめるものとなっているなと思いました。

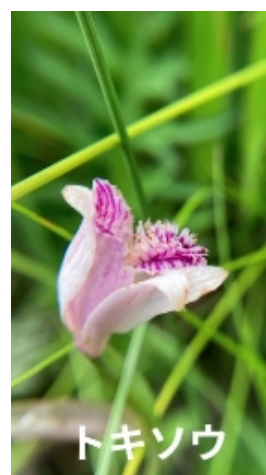
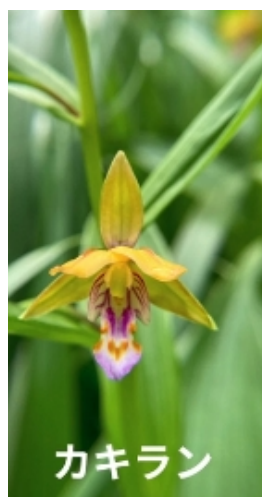
大きく広い施設、子ども達が喜びそうな、直接体験できる「ひろば」なども。子ども達が来て、触って楽しめ、体感できる工夫がいっぱいされていました。

他にも、「まが玉づくり」「ミニミニ石包丁づくり」「組紐づくり」、「古代の火おこ

し」などのイベントもあるそうです。

広い施設なので、見切れていないところもまだありました。次、また来て見たいと思いました。どうぞみなさんも、直接、「兵庫県立考古博物館」へ足を運んでみませんか。「触れて体感できる」そんな楽しい施設です。

続いて、視聴者の方から「あびき湿原」の映像です。モウセンゴケのところでハッショウトンボが舞う様子。また、ノハナショウブ、カキラン、トキソウ、ササユリなどの珍しい花も紹介されていました。



(ナレーション 古川 千代子)

【いなみ野学園 動画配信ホームページ】

https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/video/video_inamino_summary.html



＜編集・発行＞いなみ野学園 ビデオ制作委員会（いなみ野学園大学院講座研究）

☎ 079-424-3380